

りょうぜん天蚕の会だより

【第 15 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 菅野秀一（電話・FAX 024-586-3030）

【 当会の活動方針 】 霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行う。

春暖の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度15年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と設立以来、伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

30年度の繭の収穫は山付け10,000粒の実施に対し約6,000個で、記録的な猛暑が影響したため昨年より減収でした。屋外での自然育成の難しさであり、当会の作業内容にも更なる努力が求められます。天蚕製品については道の駅「伊達の郷りょうぜん」のオープン展示等により、売れ行きは順調に推移しているところです。

当会設立15周年である今年は、会員一同、意を新たにさらなる発展を目指し努力したいと思っておりますので、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。（会長 菅野秀一）

剪定作業のお茶時間 30年3月25日 館ハウス



平成 30 年度総会開催

3月11日(日) 午後3時より霊山町中川集落センターにおいて会員28名が出席し第14回総会を開催した。菅野会長の挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所橋内善雄支所長の祝辞があった。



議長に大友靖子さんを選出し、29年度事業報告、一般会計報告並びに30年度事業計画、予算案が全員賛成のもと承認された。来賓に富田蚕種の富田克衛氏、関根商店の関根氏、県伊達農業改良普及所の目黒氏が出席された。

総会後は懇親会を行い、今年度の更なる繭生産増に向けて大いに語り合った。

道の駅「伊達の郷りょうぜん」に天蚕品展示

3月22日(木) 午前10時から24日にオープンする道の駅「伊達の郷りょうぜん」の天蚕展示スペースに菅野会長他4名(八島事務局長、八島時男、八島恭子、川辺)で天蚕品の陳列を行った。十数種のブースでは関係者が慌ただしくも思いのレイアウトで商品を並べていた。

東北中央道路(霊山IC)は3月10日に開通しており、大勢の来客を期待したい。



3月24日オープンの道の駅「伊達の郷りょうぜん」→



各ブースの作業状況 (正面玄関を入り左側に天蚕ブース↑)



天蚕製品の展示状況

飼育樹の剪定作業



3月25日(日) 飼育ハウスにおいて17名の会員が参加しエゾノキヌヤナギの剪定作業を行い山付けの準備を整えた。

(表紙にも掲載してます)

(剪定作業 島貫, 義治, 健治郎, 敏, 靖子, 純子, 三田村)

天蚕山付け、ハウスネット掛け

4月22日(日) 朝8時半より会員14名による山付け作業とハウスのネット掛け作業を実施した。女性会員は2人1組となり、飼育樹木(エゾノキヌヤナギ)に10卵入りネット袋1千枚をホッチキスで止めた。男性会員はハウス全棟のネットを午前中に掛け終えた。



山付け (左から黒木さん、柳沼さん、石塚さん、八城さん)



ネット掛け (左から八島さん、義治さん、阿久津さん、河田さん)

「ふくしまシルクロードをゆく」一行来訪

6月13日(水)「ふくしまシルクロードをゆく」一行が天蚕飼育状況視察のため館ハウスに来場した。福島銀行が企画した工程で、郡山市と福島市の13名参加で「川俣おりもの展示館」「りょうぜん天蚕の会」「泉原養蚕用具展示館」「保原歴史文化資料館」を巡る歴史探訪とのこと。緑の繭と天蚕の生態について皆さん興味を示されていた。



来場した「ふくしまシルクロードをゆく」の皆さん



飼育状況を説明する八島事務局長

白鷹町天蚕の会員来訪

6月23日(土)山形県白鷹町天蚕の会の加藤栄一氏と新野孝一氏が天蚕飼育状況視察のため館ハウスに来場した。白鷹町では飼育樹(クヌギ)の芽吹きが遅かったため山付けの調整に苦慮し、「天蚕卵」の譲り受けを依頼された。

白鷹町の天蚕飼育場視察へ

7月1日(日)山形県への所要の帰路、白鷹町天蚕の会の飼育場に伺い、23日に提供した霊山天蚕卵の孵化状況を視察した。



加藤栄一さん、八島さん、新野孝一さん



須田会長、加藤栄一さんの奥様

絵本作家の岩渕さん来訪

6月24日(日)絵本作家の岩渕真理さんが館ハウスに来場した。三田村会員の案内で榎福音館書店の二神泰希氏も同行した。

岩渕さんは児童図鑑の編集デザインをされている方で、自然と子ども、親子を結びつけることをテーマに、イラスト、写真、デザインを手掛けている。身近な昆虫や生き物を通じて、自然の中の不思議さ、面白さを伝える活動をされている。

これから「天蚕」を主題とした科学絵本の製作に当たるとのこと。 二神さん、岩渕さん、三田村さん



天蚕繭の収穫

7月8日(日) 午前9時半より今年度繭の収穫作業を会員10名が参加しておこなった。昨年同様の梅雨期に晴れの高温日と夏季には記録的な猛暑が続き、台風や天候不順で作業は困難を極め、収穫量は約6,000個であった。

収穫を待つ天蚕の繭→



収穫作業中の河田さん、 石塚さん、 大山さん

収穫天蚕繭の選別と計数 八島さん、石岡さん

霊山こどもの村で天蚕工芸品づくり

8月4日(土)～5日(日) 霊山こどもの村において「福の島ワークショップ」が開催され「繭で鳥をつくろう」をテーマに天蚕繭・家蚕繭を利用した「工芸品づくり」が行われた。菅野会長、八島事務局長、八島恭子さん、島貫さんが指導に当たった。



夏休みを利用した「こどもの村」のイベントで10件ほどのテーマが準備され、2日間に大勢の親子連れが訪れた。子供たちの感性は非常に高く面白い作品が出来上がり、我々と親子共々楽しい会話が続いた。

白鷹町天蚕の会と交流会

8月29日(水)～30日(木)山形県白鷹町天蚕の会より交流会の誘いがあり菅野会長と河田会員2名が参加した。深山地区にある加藤会員の天蚕飼育場で採繭の現状などの説明を受けた。

飼育樹クヌギの芽吹きが例年に比べ遅れたこと、山付けに際し卵の孵化試験を実施したところ孵化した卵は皆無であったこと、霊山から提供された卵だけの飼育だったので例年に比し減収であったとのことであった。夕刻、加藤氏の納屋庭で白鷹町天蚕の会員をはじめ、町、行政区、織物関係者が一堂に会し交流会が開かれ盛会であった。当方(りょうぜん)から桑折町の献上桃農家で収穫した「黄貴妃」を持参したところ大変喜ばれた。

翌日、須田会長の案内で白鷹町役場に伺い、横澤浩副町長より当方に感謝の意をいただいた。そして町に保管されている小松工芸で織った天蚕紬「吉野織」が披露された。今後の交流と協力の意を新たにしたところである。



大阪大学教授が来訪

9月3日(月)大阪大学核物理研究センターの東崎昭弘氏と藤原守氏の2教授が本会に来訪し、菅野会長と八島事務局長宅において懇談した。

両氏は阪大を中心に福島大学、仙台の尚絅学院大学、岐阜大学、高知工芸大学の学生ら飯館村の土壌調査や山林汚染の時系列、福島F1の見学、山津見神社の狼天井絵の歴史と焼失後の推移の学習等を主導している。三春町福聚寺で玄侑宗久氏の講義を受講した際に天蚕飼育活動の話題になり、どのような形で学業に組み込むことが可能か考えたいとのことである。

天蚕の会の活動に「予想を超えて感慨深く、興味をそそられた。蚕業の細かい確たる道を探る日々の研鑽に頭が下がる」と後日コメントメールをいただいた。



奥が藤原氏 手前が東崎氏

天蚕まつりを開催

10月7日(日)～8日(月)の2日間、阿武隈急行保原駅で恒例の「天蚕まつり」を開催した。天蚕の繭を使ったアクセサリーを初め、生産した紬やハイブリッド・ショールや和装用小物が多く展示・販売され、会員達に付加価値を与えていることに訪れた多くの方が関心を寄せていた。



アクセサリー、紬やハイブリッド・ショールや和装用小物



天蚕の幼虫に見入る来客



来場された伊達市長の須田ご夫妻 コサージュ作りの奥様



黄金の繭「クリキュラ」の帯を召された福島市のご婦人

機織り研究に女子大生来訪

10月22日(月)福島大学の岩崎綾さんと仙台の尚絅学院大学の遠藤優佳さんの2名が天蚕の生態研究と機織り体験のため本会に来訪し、八島事務局長宅において懇談した。

お二人は大阪大学の核物理研究センター東崎昭弘氏と藤原守氏の指導する研究会に所属しており、機織りを体験するとともに八島恭子さんに諸々の質問をされていた。

岩崎さんは大学の都合を見ながら再来したいとして早速当会に入会された。心から歓迎します。



懇談する岩崎さん(左)と遠藤さん(右)



機織り体験中の岩崎さん

東京ふるさと霊山会で展示販売

11月17日(土) 東京上野「紅天広」レストランにおいて「東京ふるさと霊山会」が開催され、菅野会長と八島事務局長の2名が参加した。当会は霊山町に縁のある出身者で関東地域に居を構える方々が集い、故郷の話題と特産物をお届けする機会として開かれている。

約80名が参集し盛大な懇親会であった。久しぶりに参加した八島事務局長には皆さんから「変わりながったがい？」と懐かしい声が掛けられていた。



りょうぜん振興公社代表理事の八城氏、八島事務局長、りょうぜん漬の森藤氏



母蛾検査を実施

11月18日(日) 9時から中川集落センターにおいて会員16名が参加し母蛾検査を実施した。伝染性病原菌に冒されていないか優良種保存には欠かせない重要な作業である。今年の試験献体は98体(昨年137体)。検査の結果、疑わしい物は1体のみであった(全体の1%)。



霊山町文化祭に協賛展示

11月22日(木)~23日(金) 恒例の霊山町文化祭が開かれ当会の天蚕製品の展示を行った。ショール、ハンドバッグ、和装帯等を展示し、菅野会長、八島事務局長が説明に当たった。

今年は県知事選の会場となったため、老人作品展が先に単独開催されたことから来場者が比較的少なかった。

上保原小学校と大石小学校で繭工芸品作りを指導

2月26日(火) 上保原小学校で6年生と父兄あわせて68名が参加し天蚕コサージュ作りに挑戦した。当会から菅野会長、八島事務局長、八島恭子、川辺、菅野真由美の会員5名が指導に当たった。

天蚕を知る方も数人いたが、親子共々緑色の繭のコサージュには大いに感激していた。特に繭を二つに切る作業では蛹(さなぎ)の出現に「キャー！キャー！」と驚きながらも楽しくコサージュを作り上げていた。



3月5日(火) 大石小学校で3年生と4年生クラスの生徒達に八島事務局長夫妻が繭玉工芸の指導を行った。生徒達は自宅で飼っている「イヌ」や「ネコ」などのペットのほか、色とりどりの繭を使い分け「お花畑」「にぎやかな森の中」「きれいな花の道」など、日頃見ている身近な自然を題材にした作品なども作って楽しんでいた。

使用した家蚕の繭は6月初めより同校において生徒達が自ら飼育し収穫した繭である。



新会員紹介

大山よし子さん



郡山市喜久田町

鈴木静子さん



二本松市油井

岩崎 綾 さん



伊達市川原町

新聞記事①

朝日新聞Globe February 2019 No. 214に載っていたシルクロード06 の記事を紹介します。グローバル化が進む、大陸内奥で山々に囲まれた中央アジア諸国のうち、ウズベキスタンの「シルク再興、地域に一体化の機運」と題し「繭」に関する中野渉記者の報告です。

ウズベキスタン

シルク再興、地域に一体化の機運



プラウの製糸工場で繭を産出する女性たち

繭をゆでる生臭い湯気と、糸を紡ぐ機械音のなかで、女性たちは慣れた手つきで仕事をしていた。かつてシルクロードの要衝として栄えたウズベキスタンの古都ブハラにある製糸工場。社長のパフティヨル・ジュラエフ(39)は「忙しくて休みもなくなったが、新しいシルクの時代の到来だ」と笑顔で語った。

実は、ウズベキスタンは1000年を超える養蚕の歴史を持つ。ソ連時代は周辺国に繭や生糸を輸出していた。しかしソ連が崩壊し、独立すると政府の買い上げがなくなった。経済も停滞、中国産が台頭して養蚕業は衰退した。約90年前に創業したジュラエフの会社も、この20年間に2度の倒産を経験した。

養蚕・絹産業の復活を試みた政府は、2009年から本格的に日本の技術的支援を受け始めた。さらに、経済改革を掲げて16年に就任した大統領ミルジョエフ(61)が絹産業の振興方針を示したことが追い風になった。ジュラエフの会社は国内最大規模の製糸会社に成長。従業員女性(39)は「給料が増え、夫は出稼ぎに行かなくても済むようになった」と話した。

世界の生糸生産は1位の中国が約8割を占めるが、近年は人件費の高騰もあって頭打ちに。ウズベキスタンの生産量は1%足らずだが、インドに次いで世

中央アジア5カ国とロシア・中国



界3位につける。シルク産業協会によると、絹織物の生産は17年から21年までに9倍増となる見込みだ。昨年、伝統的な意匠をモチーフにした絹ドレスの展示会を欧州で開催したところ、フランスやイタリアなどのブランドが関心を示した。

1991年の独立以来、大統領職にあったカリモフが2016年に78歳で死去。後継のミルジョエフは孤立主義的な外交、経済政策の転換に着手した。

ウズベキスタン出身で中央アジアの政治に詳しい筑波大学院准教授のティムール・ダダバエフ(43)は「ミルジョエフは改革を進めて、ウズベキスタンを国際物流における中央アジアの中心に位置づけたい考えだ。経済が活性化すれば、ウズベキスタンの地域大国としての地位も高まる」との見方を示した。

開放で観光も活性化している。昨年2月、日本や韓国など7カ国の観光客について30日以内の滞在であればビザ不要にした。7月には101カ国に対し、5日間のビザなし滞在を認める大統領令を出した。中央アジアの中でも世界遺産をはじめ見どころが多く、「インスタ映えする」と日本からの若い観光客も急増、前年比50%近い伸びだという。

隣国カザフスタンの政治評論家、ドスム・サトバエフ(44)は「中央アジアは地域としてまとまる意識が希薄だったが、最大の人口を擁す



ウズベキスタンの世界遺産の町・サマルカンド。シャハー・ヒズィンダ織物は青・赤・黄・白の4色

新聞記事②

河北新報(本社仙台)角田支局記者が取材に来訪。「阿武隈川」流域の歴史と文化、産業として
 本会活動が紹介された。(30年11月17日(土)の記事)

阿武隈川物語

流域の歴史と文化

②

天蚕原発事故を超え

もえぎ色の繭と糸の美しさに目を奪われた。「緑のダイヤモンド」と呼ばれる天蚕」。白い繭とひと味違う自然の神秘を感じさせる。

伊達市雲山町掛田の地域おこし団体「りょうぜん天蚕の会」事務局長の八島利幸さん(82)は「糸が自然にあやを成し、織ると天然の景色が生まれる。光の反射が多様で、光沢が美しい」と魅力を語る。

阿武隈川流域の養蚕地帯の一角である掛田の生糸は戦前、「掛田折り返し糸」のブランドで輸出された。横浜市に次いで2回目の生糸産共進会も1981年、掛田で開かれた。

風評被害に苦悩

養蚕が衰退する中、八島さんが「遊休桑園を生かして地域を活性化できないか」と考えたのが天蚕だ。2005年に会を結成。飼育から糸取り、機械化を行い、反物や小物アクセサリーなどを制作する。天蚕はハウスにネットを掛

第4部 養蚕 ⑤ 緑のダイヤ



「緑のダイヤモンド」と呼ばれる天蚕。野外の木で飼育される

けて鳥や虫から守り、クヌギなどの木に卵を付けて育てる。野外飼育のため、東京電力福島第一原発事故の風評被害を受けた。「糸に放射性物質が含まれている」と誤解されたのだ。

雲山町など市内の一部は当時、特定避難勧奨地点が点在していた。原発事故で二本松市に

2 天蚕 日本原産の野蚕。「やまこ」「やままゆ」とも呼ぶ。蚕の糸より軽くて柔らかく、糸を織るには熟練の技が必要とされる。長野県安曇野市で江戸時代中期に飼育が始まったと伝えられる。



もえぎ色の美しい繭と生糸。黄色の繭ができることもある

避難。4年前、二本松に家を建てた。近所にハウスを借り、天蚕を飼いつける。自宅のあ



る浪江町権現堂地区は昨年、避難指示が解除されたが、一人で帰還するのは難しい。「虫を見ていると心が癒やされる」と言う鈴木さん。「そつとしておいた天蚕は良い繭を作る。自然に人間が手を加えてはいけない。人間が作ったものは必ず壊れる。原発しかりです」

「命の美 後世に」

阿武隈川沿いの宮城県丸森町耕野の染織家石塚美さん(51)は一昨年に入会した。

耕野地区は宮城県内では放射線量が比較的高く、避難した移住者が多かった。児童数が減った耕野小は山村留学の受け入れを開始。石塚家は里親を引き受け、取り組みを側面支援する。

「原発事故前、地域には自然と共に生きる生活があった。かけがえのない命の美しさを子どもたちに伝えたい。石塚さんの願いだ。」

首都圏で働いていた石塚さんは化学繊維が肌に合わず、脱サラ。米沢市の専門学校で織物を学んだときに天蚕を知った。耕野に移住して20年。子育てが少し落ち着き、心引かれていた天蚕を飼う機会に恵まれた。

新聞記事③

国の文化財指定答申【伊達・蚕種製造及び養蚕・製糸関連用具】

国の文化審議会は8日、伊達市の「伊達の蚕種製造及び養蚕・製糸関連用具」を重要有形民俗文化財に指定するよう柴山昌彦文部科学相に答申した。

伊達地方では蚕の卵を作る蚕種製造が古くから行われ、近世には質の高い繭と糸を作り出す品種を製造。幕府から「蚕種本場」の称号を得て一大産地に発展し、繭市に各地から生糸商人が集まるなどして栄えた。

伊達市所有の養蚕・製糸関連用具は計1,344点あり、製造法の変遷や東北地方の特徴的な技術、国内外の蚕の品種を集めた繭見本などを知ることができる貴重な資料となっている。

(福島民友 31年2月9日(土)の記事より抜粋)



伊達市所有の養蚕・製糸関連用具は計1,344点あり、製造法の変遷や東北地方の特徴的な技術、国内外の蚕の品種を集めた繭見本などを知ることができる貴重な資料となっている。

国の文化財指定答申

伊達・蚕種製造及び養蚕・製糸関連用具
会津・御田植祭

国の文化審議会は8日、形民俗文化財は9件となる。伊達市の「伊達の蚕種製造及び養蚕・製糸関連用具」を重要有形民俗文化財、喜多方市と会津美里町の「会津の御田植祭」を重要無形民俗文化財に指定するよう文部科学相に答申した。答申通り指定されれば、県内の重要有形民俗文化財は8件、重要無形民俗文化財は9件となる。

伊達市所有の養蚕・製糸関連用具は計1,344点あり、製造法の変遷や東北地方の特徴的な技術、国内外の蚕の品種を集めた繭見本などを知ることができる貴重な資料となっている。

会津の御田植祭は7月2日(うるう年は同1日)に、喜多方市の慶徳稲荷神社、同12日に会津美里町の伊達神社で行われる。豊作を祈願する田植え行事は西日本を中心に伝承されているが、会津地方ではほとんどが消滅しているといわれる。

伝統の祭り誇りに
連綿と一喜多方市長
域の人々が守り伝えてきた御田植祭を誇りに思う。地域に根差した御田植祭が長



会津の御田植祭(田植え人形の巡行)一喜多方市



会津の御田植祭(早乙女による田植え)一喜多方市

日本の近代化を支えた伊達の養蚕業

『みちのく』の『しのぶもちずり』連作篇に「乱れそめにし われならなくに」(源 巖)古今和歌集の中の一詩です。この『しのぶもちずり』が陸奥地方で語られた信夫文芸集を指している事から、遠いみちのくの報が平安時代の初期、すでに京の都にまで知られていた事がわかります。江戸時代はたくさんの生糸が、『為登糸』として京都西陣まで運ばれました。よい生糸の産地はよい蚕種の産地でした。安永年間に徳川幕府から「蚕種本場」の許しを得ると、名実ともに日本一の蚕種製造地域となり、その産地は全国に及びました。そして明治時代、輸出生糸の需要の増大と共に伊達の蚕種はさらに広範囲に販売されました。『又昔』『新編』『世界』は、伊達を代表する蚕種です。近代日本の主要産業であった養蚕業の発展には、高い品質を誇った伊達の蚕種の貢献がありました。



泉原養蚕展示室パンフレット

(伊達市教育委員会資料より抜粋)

しる 養蚕の歴史

伊達地方の養蚕業にまつわる、歴史や文化を学べます。

みる 蚕の生態

5月中旬からは蚕の飼育を実際に観察できます。

ふれる 養蚕用具

養蚕用具に触れて、養蚕農家の暮らしを体験できます。

トピックス

読者が選ぶ県内十大ニュース

- 1 県産日本酒、6年連続日本一 (写真①)
- 2 東京五輪の聖火リレー、本県から出発へ
- 3 県内記録的な猛暑
- 4 天皇、皇后両陛下がご来県
- 5 小野町で民家火災、7人犠牲
- 6 南相馬で全国植樹祭 (写真②)
- 7 内堀知事 再選
- 8 バド桃田選手が日本男子初の金メダル (写真③)
- 9 西田敏行さんに県民栄誉賞
- 10 第2原発廃炉を表明

福島民友 12月13日

きょう東日本大震災から7年

古里再生へ前進

相馬福島 相馬玉野 霊山間開通



東日本大震災発生後、相馬市玉野地区と霊山地区の間、約1.5キロメートルの区間で、道路が寸断された。この区間は、古里町の再生に不可欠な交通の要路として、地元住民や関係者から開通を強く要望されていた。県道24号の延伸として、この区間の道路が開通し、古里町の再生に大きく貢献する見込みだ。

相馬市玉野地区と霊山地区の間、約1.5キロメートルの区間で、道路が寸断された。この区間は、古里町の再生に不可欠な交通の要路として、地元住民や関係者から開通を強く要望されていた。県道24号の延伸として、この区間の道路が開通し、古里町の再生に大きく貢献する見込みだ。

福島民報 H30 3月11日 ↑

本庶氏ノーベル賞

医学生理学賞

がん免疫療法「オプジーボ」

根本氏 相馬市長に再入閣へ

総務会長に加藤厚芳相



「オプジーボ」を開発した本庶佑氏が、がん免疫療法の功績でノーベル医学生理学賞を受賞した。相馬市長は、本庶氏の功績を称え、再入閣を希望している。また、総務会長に加藤厚芳相が就任した。

福島民友 10月2日

北海道震度7

道内全295万戸停電

5人死亡、心肺停止4人

安否不明28人



北海道で発生した地震は、道内全域にわたって大きな被害をもたらした。全道で295万戸以上の停電が発生し、5人死亡、心肺停止4人、安否不明28人の被害が出た。各地で建物倒壊や火災が発生し、交通も大混乱を来している。

福島民友 9月7日

ゴーン会長逮捕

報酬50億円過少記載

日産私的流用確認

解

東京地検特捜部

日産自動車会長、カルロス・ゴーン氏が、報酬50億円が過少に記載されていたことや、私的流用が確認されたとして、逮捕された。

門田隆将さん「死の淵を見た男」映画化、20年公開

映画化、20年公開

門田隆将さん「死の淵を見た男」映画化、20年公開

福島民友 11月20日

本県、日本一

全国男子駅伝

東北勢初

アンカー相沢再逆



全国男子駅伝大会で、福島県勢が初優勝を果たした。アンカーを務めた相沢選手が、逆転の走りを果たし、チームを優勝へと導いた。

福島民友 1月21日 ↑

古関裕而、朝ドラに

20年春放送「エール」

NHK決定 福島市要望実現

米朝、合意できず

非核化 制裁解除望り再



古関裕而の朝ドラ「エール」が、20年春にNHKで放送されることになった。福島市は、この機会に米朝合意が実現しない限り、非核化を求め、制裁解除を望んでいる。

福島民友 3月1日 ↑

会員の活動スナップ



3月22日 道の駅展示スペースに陳列作業中の会員諸氏



3月25日 剪定作業の佐藤健治郎さん、八城繁子さん



4月22日 山付け作業の川辺さん、八島恭子さん



7月8日 繭収穫作業の斎藤義治さん、島貫さん



10月7日 天蚕まつり 来場された伊達市長の須田博行様ご夫妻と記念撮影。奥様は天蚕コサージュを召されています。
(関根様ご夫妻、 八島恭子、 須田博行様ご夫妻、 八島利幸、八島時男、河田明芳、柳沼佐奈枝、菅野秀一)



天蚕での精巧な折鶴を飾ったイヤリング



11月22日 霊山町文化祭 天蚕ショールと和紙保存袋に見入る来客